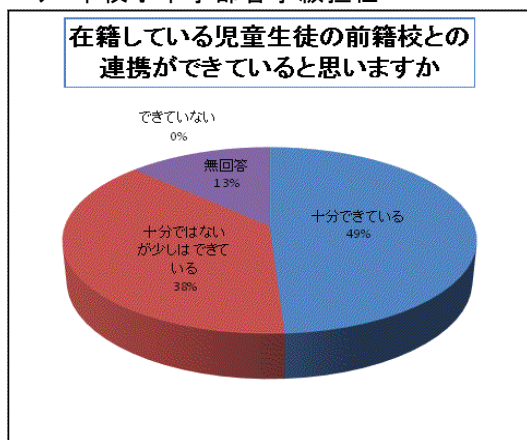


資料1

1 関係者への聞き取り調査結果

(1) 前籍校との連携について

ア 本校小中学部各学級担任



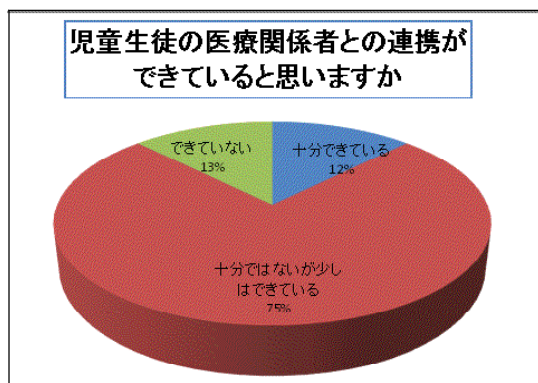
連携できていると感じること	連携が不十分だと感じること
<ul style="list-style-type: none"> 前担任から児童生徒の情報を得ること 学習進捗の確認 日頃の情報交換 転出時の情報の伝達 教材での交流 教材の引き継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> 前担任から児童生徒の情報を得ること 学習進捗の確認 日頃の情報交換 転出時の情報の伝達

イ 各教場地域支援係

連携できていると感じること	連携が不十分だと感じること
<ul style="list-style-type: none"> 転出入の手続き 学習状況の連絡や実力テストのやりとり 児童生徒の情報のやりとり 児童生徒同士の交流 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒についての細かな情報交換 支援を必要とする児童生徒に対する認識のずれ 直接会ったり、話したりしての情報共有 児童生徒の体調等に関する養護教諭との連携

(2) 医療との連携について

ア 本校小中学部各学級担任



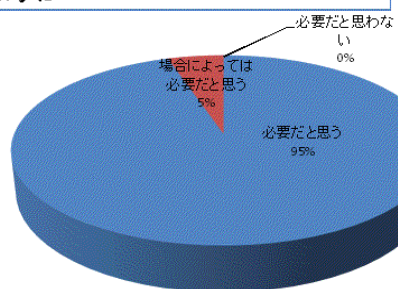
連携できていると感じること	連携が不十分だと感じること
<ul style="list-style-type: none"> 毎日の出席や体調の確認 学習内容についての確認 学校行事への参加の確認 治療についての情報共有 支援会議 保護者への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の出席や体調の確認 治療についての情報共有 支援会議 看護師との情報共有 子どもを協働で見ようという意識の共通理解が不十分

イ 各教場地域支援係

連携できていると感じること	連携が不十分だと感じること
<ul style="list-style-type: none"> 師長との情報交換 「学病連絡会議」での情報交換 訪問学級におけるソーシャルワーカーとの連携 保育士からの情報提供 カンファレンスへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> 「学病連絡会議」での情報が不十分 医師が多忙で直接話ができない 日々の情報交換が十分にできない 看護師との情報共有 子どもを協働で見ようという意識の共通理解が不十分

ウ 医療関係者

入院中の学齢の患児について教育機関と連携することは必要だと思いますか



病気の子どもや保護者に対してチーム支援を行うことは有効だと思いますか

思う … 100%

連携が必要だと思う理由

- ・ 患児の学校での様子を知ることは有効だから
- ・ 保護者が連携を望んでいるから
- ・ 患児が退院後も学校生活において生活制限を伴うから
- ・ 患児が学校生活に戻ってからも何らかの医療的なケアが必要だから
- ・ 心理面の問題を抱えているので
- ・ 患児について特性の理解が必要だから
- ・ 様々な支援者が協働して支援をしていけるように

チーム支援が有効だと思う理由

- ・ 多面的包括的な支援ができるので
- ・ それぞれ専門性があるから
- ・ 学童期の子どもたちにとって教育は大切であるから
- ・ 指導がうまくできているか今後の指導に役立てるため
- ・ 単独の職種では限界があるため
- ・ 身体的にも心理的にもサポートが必要だと思う
- ・ 多角的な視点で生活の偏りを減らすため
- ・ いろいろな視点で対応できる
- ・ 医師のみでは把握できないことが多い
- ・ それぞれの分からないところを補う
- ・ 外来の限られた時間や母子が一緒にいる環境で患児の様子をうかがうのは困難だから
- ・ 医療のみが患児の生活のすべてではない
- ・ それぞれがかかわっている部分は本人のほんの一部分だけであり、本人を時間的にも空間的にもトータルでとらえていくことが必然だから
- ・ 生活全体を支援するため、一部の力では無理がある
- ・ 一職種(例えば医師のみ)で行えることには限界がある

今後、可能であれば患児に対してチーム支援を行っていきたいと思いますか

思う … 100%

チーム支援を行おうとしたときに解決しなければならない課題は

- 時間調整 … 66.7%
- 共通理解の方法 … 66.7%
- コーディネーター役の存在 … 76.2%
- 協力者の増員 … 4.8%